

芸術ニュースは世界へ発信するワールド・ステージ

週刊 芸術新聞

発行：アグリーシステム 週刊芸術新聞編集部

本社：千葉県茂原市渋谷1016-12

メール：agree@green.ocn.jp

agree-sys@excite.co.jp

HP：http://weeklyart.seesaa.net/auth/article_preview/

おもしろ体験博物館
江戸民具街道

神奈川県足柄上郡中井町久所418

開館時間：9:00~17:00

休館日：月曜日

問い合わせ：0465-81-5339

HP：http://edomingu.com/

京都国立博物館開館120周年記念 特別展
「海北友松」大回顧展

京都国立博物館は、開館120周年記念 特別展として、武家に生まれ、桃山を生きた、最後の巨匠・海北友松の大回顧展が開催される。

桃山最後の巨匠

海北友松（かいほうゆうしょう）（1533~1615）は狩野永徳や長谷川等伯と並び称される桃山画壇の巨匠。

近江浅井家の家臣の家に生まれ

た彼は、若年を東福寺で過ごしたが、主家や兄が信長に滅ぼされるに及び、還俗して狩野派の門を敲

き、画の道に進んだと伝えられている。いま遺る作品のほとんどは狩野派から独立して以後の晩年期（60歳以降）のもので、鋭い筆遣いが駆使された気迫溢れる水墨画や诗情豊かな大和絵金碧画などは、ほかの誰の作とも似ていない、まさに友松ならではのものといえる。

最晩年まで絵筆を握り続け、83歳でその生涯を終えた桃山最後の巨匠の世界を、心ゆくまで堪能できる。

代表作はもとより、数少ない初期作品、新発見作品を通じて海北友松の生涯を紹介する。

●見どころは次の章に分

かれて展示。

第一章 絵師・友松のは

じまり 狩野派に学ぶ

第二章 交流の軌跡 前半生の謎に迫る

第三章 飛躍の第一歩 建仁寺の塔頭に描く

第四章 友松の晴れ舞台 建仁寺大方丈障壁画

第五章 活発化する画事 変わりゆく友松画風

第六章 八条宮智仁親王との出会い 大和絵金碧屏風を描く

第七章 横溢する個性 妙心寺の金碧屏風

第八章 画龍の名手・友松 海を渡った名声

第九章 友松の押絵、人氣を博す 最晩年期の交友

第十章 豊かな诗情 友松画の到達点

◆ 4月11日（火）
～ 5月21日（日）

京都国立博物館 平成知

新館（京都市東山区茶屋町

527） TEL 075-52

52473（テレホン

サービス） 一般1500

円 大学生1200円 高

校生900円 中学生以下

無料 毎週月曜日休館

次号は
4月13日発行

熱海湾を一望で
き、眺望ナンバー
ワンの美術館

■ MOA美術館（静

岡県熱海市桃山町26

2） 電話0557-

（84）2511-1

一般1600、高大生8

00円、中学生以下無

料、65歳以上1200

円 木曜日休（祝日は開

館）

JR熱海駅下車／バ

ス4番のりばMOA美

術館行8分

版画でみる20世
紀展 ピカソか
らウォーホルま
で 開催中！

■ 諸橋近代美術館

（福島県耶麻郡北塩原

村大字松原字剣ヶ峰1

093番23） 一般・

大学生950円、高校

生500円、小・中学

200円生*毎週土曜

日、小・中学生は無料

電話0241(37)

1088

ボイマンス美術館所蔵 ブリューゲル

「バベルの塔」展

16世紀ネーデルラントの至宝ーボスを超えてー

ボイマンス美術館所蔵
「バベルの塔」展
16世紀ネーデルラントの至宝ーボスを超えてー
副題に「バベルの塔」展を、東京美術館で開催される。副題に「バベルの塔」展を、東京美術館で開催される。

BABEL

16世紀ネーデルラントの至宝ーボスを超えてー
ブリューゲルの最高傑作、ついに来日!



ゲルのみならず、彼が手本とした先駆者ヒエロニムス・ボスの油彩2点、そして彼らが生きた時代、16世紀

紀ネーデルラントの絵画、版画、彫刻を全体で約90点の出品作でご紹介。迫真の写実と輝くような

美しい色彩が印象的な油彩絵画、ボスの怪物モチーフが所狭しと、描かれる版画作品、そして木彫の粹を尽くした彫刻作品

など、16世紀ネーデルラント美術の精華を展観できる。

「奇想の画家、ボス」の油彩画2点が初来日する。2016年はボス没後500年に当たり、欧米ではボス・ブームが起きている。世界中で約25点しかない

◆ 4月18日 (火) ~ 7月2日 (日)
東京都美術館 企画棟
企画展示室 (東京都台東区上野公園8-36) Tel 03-3823-6920
一般1400円 大学生・専門生1100円 高校生600円 65歳以上1000円 中学生以下は無料
毎週月曜日休館(ただし、5月1日(月)は開室)

■北九州市立小倉城庭園 (北九州市小倉北区城内1-2) 電話093-(582) 2747 会期中無休

庭園ゾーン
書院ゾーン
体験ゾーン
展示ゾーン

■静岡市立芹沢鉦介美術館 (静岡市駿河区登呂4-10-5) 電話054-(282) 5522
一般410円 高大生250円 月曜日休館

2

鳥取藩主であった池田

能、絢爛豪華な装束と面

林原コレクションによる

佐野美術館



備前岡山藩は、寛永9年(1633)光政(いけだ みつまさ)が一族による領地替えによって初代藩主となった、中国地方の雄藩。池田家は、江戸時代を通

ら舞い、多くの謡曲を書き記している。この池田家に伝わる能楽関係の資料は、現在は岡山市にある林原美術館の所蔵となり、同館の

優れたコレクションの中核をなしている。殊に装束類は質・量ともに抜群で、重要文化財の桃山時代の貴重な装束や、唐織(からおり)、厚板(あついた)、縫箔(ぬいはく)、摺箔(すりはく)、鬘(かざら)帯、腰帯など多岐にわたる能装束、素襖(すおう)、肩衣(かたぎぬ)などの狂言装束は、その豪華なデザインと高い技術において近世染織を代表し、また170面におよぶ能面、狂言面にも優れたものが多くみられる。

◆ 4月8日 (土) ~ 5月14日 (日)
佐野美術館 (静岡県三島市中田町1-43) Tel 054-975-7278
一般・大学生1000円 小・中・高校生500円 毎週木曜日休館

じて能に親しんだことで知られており、特に二代綱政(つなまさ)、三代綱政(つなまさ)、代継政(つぐまさ)は、能役者を抱え、自ら能面、狂言面にも優れたものが多くみられる。

品38領と鬘帯、腰帯、室町時代のものを含む能面、狂言面22面などを展示、歴代藩主の美意識によって揃えられた絢爛豪華な大名家の能の世界を紹介。

■国立歴史民俗博物館 (千葉県佐倉市城内町1-17) 電話03-(5777) 8600
一般420円、高校・大学生250円、中学生以下無料 月曜日休館

日本の歴史・文化の流れの中から論点を絞ったテーマを選んでの展示

着物、帯、のれん、屏風、額絵、絵本など多岐にわたる

「日本博物館」 の実現をかける

19世紀、アジアのさい果ての国「ニッポン」に憧れ、オランダ商館の医師としてやって来たドイツ人、フィリップ・フランツ・バルタザール・フォン・シーボルト。

二度の来日で熱心に博物館的な収集をおこない、日本の自然や生活文化を中心

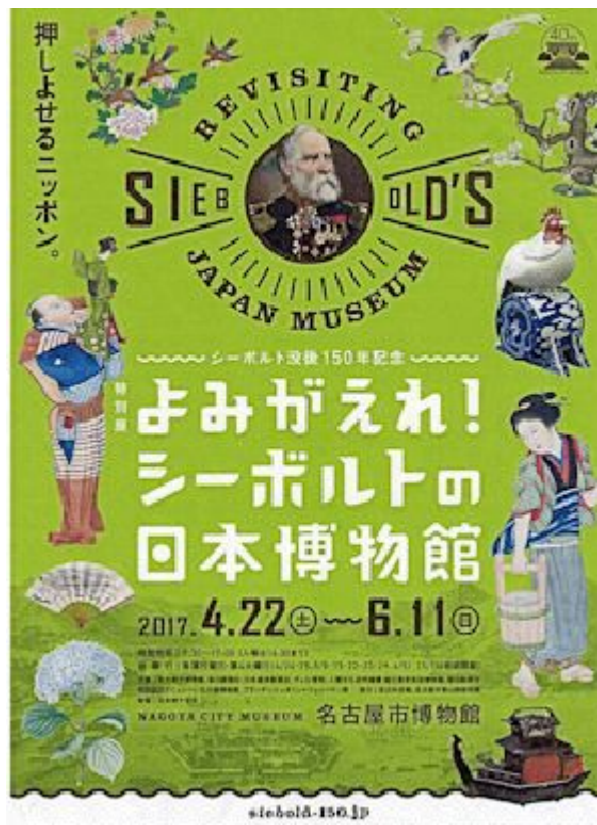
よみがえれ！ シーボルトの日本博物館

シーボルト没後150年記念 特別展

名古屋博物館

とした膨大な数の物品を持ち帰った。彼はこれらを駆使して、ヨーロッパに日本を紹介するための展覧会をたびたび開いたが、それは万国博覧会やジャポニスムの流行の先駆けとなる活動となった。

この「日本博物館」の実現に生涯をかけた彼の没後150年を記念し、厳選した約300点の品々が今回ドイツから里帰りをした。



シーボルトが魅せられ、またヨーロッパの人々に見せようとした「ニッポン」の姿にせまる展覧会となる

本研究
第三章 シーボルトの日本展示と民族学博物館構想
第四章 ようこそシーボルトの日本博物館へ
第五章 日本研究者シーボルトの最後

◆ 4月22日
(土) ~ 6月11日

メモ

名古屋博物館(名古屋瑞穂区瑞穂通1-27)
Tel 052 653 2655 一般1300円
高大生900円 小中生500円 毎週月曜日・第4火曜日休館(4/24、25、5/8、15、22、23、29、6/5。5/1は特別開館)



はしらのみ
本年も諏訪大社で行われた7年に一度の御柱(おんばしら)祭りにその一端がうかがえるでしょう。
人間よりはるかに大きな樹木は、人間の寿命をはるかに超えた長い時間風雪に耐えて大地に立ち続ける。樹木は日本人にとって身近でありながらも、祈りの対象でもありました。そうした「樹」を伐り出し、大地から切り離された「木」に彫られた仏像や神像、それが本展のテーマである木彫像。

大阪市立美術館

木×仏像

飛鳥仏から円空へ
日本の木彫仏1000年

仏像の素材と なった木の種類

本展は日本の木彫仏の魅力を再発見することを目的とし、素材である「木」に注目しながら鑑賞する企画展。一本の樹木にこだわって造られた仏像。その造形に親しみ、楽しむ空間を提供。日本人は古来より樹木に対して畏敬の念をもつて見てきた。先ごろ造替のなった出雲大社の心御柱(しんのみはしら)や、

本展では仏像の素材となった木の種類、あるいは木材の用いられ方など素材に注目することによって、仏像に込められた深い意味を理解する手掛かりとし、その魅力を再発見する。

◆ 4月8日
(土) ~ 6月4日

メモ

大阪市立美術館(大阪府大阪市天王寺区茶臼山町1-82)
Tel 06 6771 4871 一般1300円 高大生1100円 中学生以下無料 毎週月曜日(ただし、5月1日は開館)

特集

「奇想」の元祖は雪村か!?

特別展 雪村 —奇想の誕生—

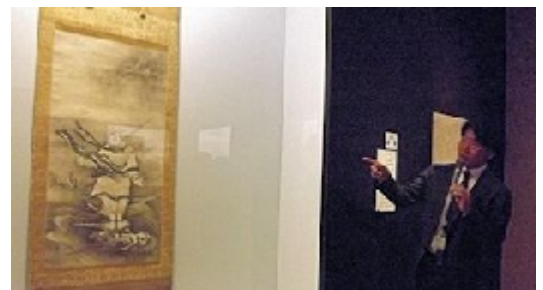
東京藝術大学大学美術館

国立藝術大学大学美術館では、奇想の元祖と言われる雪村作品が約90点が展示され、息をのむ雪村芸術を細部まで堪能できる展覧会となっている。

人間味あふれる 温かな水墨画

雪舟が表舞台で華やかさで知られているなか、雪村は裏で活躍したと言われ、その奇想の誕生・雪村作品が波風立てて、上野にドーンとやって来た!

首の骨が折れるくらいに仰ぎ見る顔から、斜め上に向かつてピンと伸びる長いヒゲ。足元を見れば、ギョロツとした目つきの龍。「呂



洞賓図(りようどうひんず)」に描かれる場面は、何から何までありえない。この作品を描いたのは、戦国時代の画僧、雪村周継(せつそんしゅうけい)。

武将の子として生まれながら出家して画業に専心した雪村は、故郷である茨城や福島、神奈川など東国各地を活躍の場とした。その



生涯は未だ謎に包まれているが、ひととき革新的で、また人間味あふれる温かな水墨画を描き続けた、ということだけは確か。



雪村の作品は江戸時代の尾形光琳らを魅了し、狩野芳崖ら近代の画家たちへと受容された。本展は、雪村の主要作品



約100件と関連作品約30件で構成される最大規模の回顧展となっていて、雪村の「奇想」はどのようにして生まれたのか、その全貌に迫っている。



メモ

◆ 3月28日
(火) ~ 5月

21日(日)

東京藝術大学大学美術館 本館 展示室
1、2、3、4 (東京都台東区上野公園12-8)
TEL 03-5777-8600 (ハローダイヤル) 一般1600円 大学生1200円 高校生900円 中学生以下無料 毎週月曜日休館(ただし、5月1日は開館)

2017年5月7日までの主な展覧会情報

美術館・博物館ガイド

東京都内

●東京国立近代美術館

「マルセル・ブロイヤーの家具・improvement for good」
5月7日まで Tel 03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般430円 3月21日休館

●東京都美術館 「ティッアイノとヴェネツィア派展」 4月2日まで Tel 03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般1600円 3月21日休館

●江戸東京博物館 「江戸と北京 18世紀の都市と暮らし」 4月9日まで Tel 03 3626 9974 一般1400円 月曜日休館

●東京都写真美術館 「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編」 5月7日まで Tel 03 3280 0099 一般700円 月曜日休館

●東京都庭園美術館

「並河靖之七宝展」 4月9日まで Tel 03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般1100円 3月22日休館

●東京ステーションギャラリー 「パロディ、二重の声 日本の一九七〇年代前後左右」 4月16日まで Tel 03 3212 2485 一般900円 月曜日休館

●山種美術館 「日本画の教科書 東京編」 4月16日まで Tel 03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般1200円 月曜日休館

●三井記念美術館 「三井家のおひなさま」 4月2日まで Tel 03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般1000円 月曜日休館

●Bunkamura ザ・ミュージアム 「これぞ昭和！世界が認めたその画力」 4月16日まで Tel 03 5777 8600

(ハローダイヤル) 一般1400円 無休

●原美術館 「エリザベス・ペイトン・スタイルライフ 静／生」 5月7日まで Tel 03 3445 0651 一般1100円 月曜日休館

●世田谷美術館 「花森安治の仕事 デザインする手、編集長の眼」 3月26日まで Tel 03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般1000円 月曜日休館

●練馬区立美術館 「田沼武能肖像写真展 時代を刻んだ貌(かお)」 4月9日まで Tel 03 3577 1821 一般500円 月曜日休館

●町田市立博物館 「藍色浪漫 伊万里染付 図変り大皿の世界」 5月7日まで Tel 042 726 1531 一般300円

東京郊外

月曜日休館

●町田市立国際版画美術館 「吉例浮世絵大公開！江戸ノスタルジア」 4月9日まで Tel 042 726 2771 一般600円 月曜日休館

●府中市美術館 「歌川国芳 21世紀の絵画力」 5月7日まで Tel 03 5777 8600 (ハローダイヤル) 一般700円 月曜日休館

●茨城県近代美術館 「東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展」 4月2日まで Tel 029 243 111 一般1080円 無休

関東南部

●横浜みなと博物館 「海難と救助 信仰から SOSへ」 4月16日まで Tel 045 221 0280 一般200円 月曜日休館

●そごう美術館 「絵画の潮流展」 4月9日まで Tel 045 465 5515 一般1000円 無休

●横須賀美術館 「横須賀ゆかりの友禅作家 中村

休 ●横須賀美術館 「横須賀ゆかりの友禅作家 中村

光哉展」 4月16日まで Tel 046 845 121 一般800円 無休

●平塚市美術館 「東京都現代美術館コレクション 近代日本画名品展」 4月9日まで Tel 0463 35 2111 一般200円 月曜日休館

●岡田美術館 「美術館で巡る 東海道五十三次の旅」 4月2日まで Tel 0460 87 3931 一般2800円 無休

関東北部

●茨城県近代美術館 「東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展」 4月2日まで Tel 029 243 111 一般1080円 無休

●栃木県立美術館 「額装の日本画」 4月2日まで Tel 028 621 566 一般700円 月曜日休館

●足利市立美術館 「今、超克のとき。いざ、足利。山姥切国広展」 3月12日まで Tel 0284 43 3131 一般700円 3月21日休館

●箱根ラリック美術館 (神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300 432) 電話0460 (82) 2717 火曜日休館 毎週土曜日は夕方5時まで営業

*お出かけ時は再度ご確認下さい。

ルネ・ラリックの生涯と出会う

●箱根ラリック美術館 (神奈川県足柄下郡箱根町仙石原186番1) 電話0460(84) 2255 一般1500円、大学生・高校生・シニア(65歳以上) 1300円、中学生・小学生800円年中無休

からくり人形な関係資料多数展示中

●江戸民具街道(神奈川県足柄上郡中井町久所418) 電話0465(81) 5339 月曜日休館

箱根の景観と自慢のスウィーツを楽します

●箱根写真美術館 (神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300 432) 電話0460 (82) 2717 火曜日休館 毎週土曜日は夕方5時まで営業

Art Topics

箱根写真美術館 開館15周年特別展

Requiemレクイエム
吉田大朋 写真展 軽妙洒脱



追悼の
気持ちを込めて

箱根写真美術館では、開館15周年特別展として、日本人として初めてフランス

の『ELLE』本誌と専属契約を交わし、当時の世界のモードを日本へ伝える重要な役割を担った写真家、吉田大朋（よしだ だいほう）氏の作品展を開催することとなり、準備を進めておりましたが、2017年2月10日に吉田大朋氏が享年82歳で逝去されました。追悼の気持ちを込めて、当館の1・2階両フロアにて本展を開催する運びとなりました。

日本のファッション誌を

メモ

◆4月5日(水)
5月29日(月)

箱根写真美術館(神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300 432) Tel 046-082-2717 一般500円 小学生以下300円 毎週火曜日休館



小島瑠璃子さん

なお、一般の招待客10組20名も出席する予定となっている。

大英自然史博物館展
公式サポーター・小島瑠璃子さん来館決定！

国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)にて、3月18日(土)より好評開催中の「大英自然史博物館展」では、4月10日(月)に本展公式サポーターを務めるタレント・小島瑠璃子さんの来館が決まりました。

当日は国立科学博物館地球学研究所・矢部淳先生と小島瑠璃子さんとのトークショーが行われ、本展の見どころやお気に入り標本、本場ロンドンの様子など自由に語り合うことになっている。



公開制作によって、「ものづくり」の現場とその変化の「過程」をご覧いただき、人の「手でつくる」視点からガウディ建築を新たに読み解く試

2006年のグランドオープン以来、ものづくりの心を伝え続けてきている。INAXライブミュージアムの10周年を記念した特別展『つくるガウディ』。スペインを代表する建築家アントニオ・ガウディの未完の建築「コロニア・ゲエル教会」から着想を得て設計した建築構造を、タイルと左官の職人たちが、半年近い会期にわたり、現場で対話し、協働して制作を進めてきた。そしてこの3月ついに完成。

◆4月15日
(土) 5月30日(火)

企画展示室(愛知県常滑市奥栄町1-130) Tel 0569-348282 ライブミュージアム内共通入館料「税込」一般600円 高・大学生400円 小・中学生200円 毎週水曜日(祝日の場合は開館)

みでもある。完成披露も兼ねた本展では、3名の制作者のガウディへのオマージュである空間を美しい照明演出により展観できる。

編集後記

◆桜の開花があちこちから伝わるなか、本編集部は、次号の企画や取材体制をどうするかなど、てんてこ舞い状態で、テレビ画面から流れる桜だよりにチラチラ目移りする程度でいます。

◆このところ、全国の美術館・博物館・ギャラリーからメール便で、早め早めの展覧会情報やニュースなどが入ってきて、その数は半端ではないほどです。編集部としてはとてもうれしく、とても感謝すべき状態です。なかでも関東エリア以外からの情報には、編集部では取材に飛んでい

けないことから、本当に頭が下がる思いで、感謝・感謝・感謝するのみです。

◆4月に入り、各企業では新規シーズンを迎えるに当たっているようです。本編集部でも新規シーズンとして紙面構成をしたいと思っておりますが、なかなか「これ…」と言う奇策が出ていなく、悪戦苦闘が続いていることに気分が晴れない状態に陥っていますが、取材。紙面編集をしながら考えて行きます。

〓 Y・O 〓